

## 追憶

中野 四郎

昭和三十六年七月のある朝、突然、私の郷里の自宅に大平官房長官よりお電話をいただいた。

その頃、私は改進黨から保守合同を提唱、堤康次郎議長等と新党クラブを結成し、後に自民党の公認を得て、三十五年十一月、六回目の当選を得た直後のことであつた。

直ちに上京してくれとのこと、党本部に大平先生をお訪ねし、社会労働委員長就任のお話をうけたまわつたのが、親しくお話をした最初の出会いであつた。

低音ながら情愛のこもつたお人柄に接し、爾来ご指導をいただいていたが、不思議なご縁で第一次大平内閣に入閣するに及んで、さらに一段とお世話を受けることになつた。

私が国土庁長官として、茨城県東海村の日本原子力研究所東海研究所のご視察に随行して、しみじみと感じ入つたことは、平素は口かずの少ないお人柄に似合わず、同研究所の係員の説明に対して専門的なご質問をつぎつぎと、しかも納得されるまでされておつたことである。

あのときの日本の将来のエネルギー問題に意を配られ、深い関心をもつて終始されたお姿を想起して、今は亡き、偉大なる大平正芳先生のご遺徳を偲んでやみません。

ここに追憶の念にかられつつ謹んで改めてご冥福をお祈りいたします。

(衆議院議員・第一次大平内閣国土庁長官)